

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800021	事業の開始年月日	平成18年9月1日
		指定年月日	平成18年9月1日
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東		
所在地	(224-0006)		
	神奈川県横浜市都筑区荏田東4-14-12		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成24年9月27日	評価結果 市町村受理日	平成25年1月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/14/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ligvosvoCd=1493800021-00&ProfCd=14&VersionCd=022
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんなの家」という名前のように、利用者様、ご家族様、職員、地域が皆で協力、連携しながら事業所を作り、共に生活する仲間としての絆が築けるよう、一人一人に寄り添い、互いに助け合えるような関係作りを目指し日々のケアに取り組んでいます。今年度事業所では、看取り介護について力を入れて取り組み、その中から数多くの利用者様、ご家族様の「思い」に触れさせて頂きました。今後も一人一人に寄り添い、大切な時間が共に過ごせる様、これからの支援に取り組んで参りたいと思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成24年10月25日	評価機関 評価決定日	平成24年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

横浜市営地下鉄「センター南」駅から徒歩15分、広大な公園に隣接する住宅街の一角にあります。
<優れている点>
ホームの洒落た外観は緑の多い周囲の地域に溶け込み、親しみが感じられます。玄関に入ると、ホーム長や他の職員の明るい声やメリハリの良い対応で、利用者にもごく自然な笑顔が見られ和みます。2ヶ月に一度開催される運営推進会議には入居者家族をはじめ、地元の方、民生委員や行政の方の出席を得て、成果として、防災訓練の協力や地域の方の気軽な訪問など、透明化を図る趣旨が活かされています。事業所の得意分野を活かして認知症の勉強会を地域に向けて発信するなど、地域に対して積極的な姿勢が見られます。全職員にホーム理念の「みんなで元気に楽しく共に生きる」という言葉が浸透しており、ホーム全体の一体感を感じます。ターミナルケアの対応では、実施に至っては医療・看護・介護それぞれの分野が協働して相互の長所が活かされています。
<工夫点>
ホーム職員のモチベーションをあげるために、全職員が各自の「接遇目標」を掲げ、事務所に掲示しています。やる気を引き上げ、それを見える化することで、意識も高まり、互いの目標を知ることで、協力できるところをさりげなく促す仕組みに工夫が見られます。ホーム長は自治会の班長をしており、そこでは地域の方に少しでもホームのことを知ってもらおうと、自治会メンバーの戸別訪問の機会を利用して、その存在をアピールしています。職員には利用者の居室別担当を配置し、本人や家族を深く知ることはもちろん、その方によって課題を考え、それを確認したり相談を受けたりしています。日常的な外出支援では、自分(入居者自身)で「りんごシート」の大きなりんごの木の枝先の実に、行きたい所を書き込んで、お出かけ前の楽しみをみんなで共有することを狙っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【みんなで元気に楽しく共に生きる】の理念の下、利用者本意の個別ケアを主体とした取り組みが出来るよう、日常生活の様子を記録に残し、カンファレンス等で話し合う場を作り、職員全員で共有し、実践へとつなげています。	日常のケアの中では常に理念を念頭において業務をしています。例えば、行事の企画を立てる場合、すべての方が楽しめる方法には何があるかなどを考えたり、常に「楽しく、生きる」にはどうあればいいかを考え、実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、今年度は自治会の班長として月1回の集会に参加し、回覧の配布を始め、祭りの参加、消防訓練、敬老の日等、今まで以上に地域の方との交流が図れています。	30世帯ほどの自治会で今年度は班長の役を遂行されています。班長をやることで「地域の目線」でホームを見ることができ、敬老の日は自治会の会員に祝いのまんじゅうを配ったり、自治会配布物を各戸訪問して顔の見える活動がされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事案内を掲示板に展示、近隣への声掛けに挨拶回りやポスティングを行ったり、自治会の高齢者の食事会に参加する中で交流を図り、事業所に気軽に立ち寄って頂くよう呼びかけを行っています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回の開催を目指し、事業所として、地域と共に出来る事を話し合い、依頼、協力を求め意見交換をしています。現在、夜間を想定した火災時の協力について、近隣との緊急連絡簿の作成を行いサービスの向上に活かしています。	利用者の家族、自治会会長、民生委員、区担当者、域包括支援センター担当者の出席により実施されています。会議をきっかけに地域の食事会や体操の集会に参加したり、緊急時の地域協力など、会議の趣旨が活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や、認知症サポーター連絡会、認定更新の機会等に、市町村へ足を運び情報提供をし、担当者との連携を深めています。	区役所からの依頼で、地元中学校の生徒300名に対して認知症の勉強会を実施しています。その他、災害時の車の貸出しなど民生委員の橋渡しで地域に役立つような連携が取れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0（ゼロ）のマニュアルを配置し周知徹底しています。身体拘束廃止委員会を設け、職員で話し合いをし、概ね3ヶ月毎に身体拘束チェックシートにて拘束の有無の確認、疑問点は安全対策委員会へ繋げる等し、日々のケアに取り組んでいます。	身体拘束実施のチェックリストにおいて、11項目にわたって定期的にご利用者別にチェックしています。さらに社内の「安全対策委員会」では疑問点や身体拘束禁止に関する細かい情報を共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社での研修、グループホーム連絡協議会での研修等に参加し、回覧やフロア会議等で話し合い、事例などから身近の問題だと職員間で理解し、日々の業務での観察、新たな気付き、発見、報告を実践し、職員全員で虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社での研修、グループホーム連絡協議会や各研修に職員が参加できるよう掲示し、出来るがぎり希望に添えるようシフトの調整を行い参加しています。研修後は必ず回覧を行い、情報の共有をし活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、解約時は施設側、家族側が納得の上契約される様十分な説明を行い、利用者、家族の意向、問題点を確認し支援に反映しています。職員も内容を把握し、同じ方向性でケアが出来る様努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社、事業所にも苦情相談窓口を設けていると共に、投書箱の設置、市区町村へ案内の掲示をしています。又、職員全員が苦情相談員としての一端が担える様、家族会での意見交換等から反映し努力しています。	ホームの行事を兼ねて年に6回実施し、7～8組の家族が参加されています。フリートーク形式で自由に話していただくスタイルで、散歩を増やして欲しい、クーラーの掃除をして欲しいなどの意見があり、これらを実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例フロア会議や、随時全体会議、正社員会議を開催し意見交換を行なっています。職員の個別対応、面談も随時行ない、意見、相談等話し合う場を設け、何でも話せる環境作りに努め反映させています。	フロア会議は、ほぼ全員が参加しています。「ホーム長研修」の報告、カンファレンス、ミニ研修、行事や伝達事項など共有を図っています。日常の業務の中でも自由に意見が言える雰囲気を感じられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、勤務状況、仕事への意欲、取り組み姿勢等個別の評価をしています。又、やりがいを持ち生き活きと働けるよう、常に自分自身で目標を掲げ、達成出来るように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社やグループホーム連絡協議会、市区町村での研修案内を掲示し、事前に希望や推薦を募り、勤務調整をし参加できるように対応しています。研修後はレポートを作成し、研修資料を回覧、職員全員で共有し現場へ活かせるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会や運営推進会議での交流の場を活かし、同業者との交流が図れるように努めています。近隣の同業者には、行事の案内や、お誘いの訪問をしながら相互の交流が出来る様に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調やサマリーだけの情報に頼らず、職員全員で情報収集に努め、コミュニケーションの中から、本人の訴えや希望、意向、不安、悩み等を傾聴し、知りえた新情報を生活記録にて共有し、本人が安心出来る環境、関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や要望を傾聴し、迅速な対応を心がけています。面会時等で、職員の対応からも安心感を持って頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	【必要な人に必要なサービスの提供を】の会社理念の下、利用者と家族のニーズに添ったケアプランを作成し、モニタリングやカンファで話し合いを行い、ニーズに答えられる様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念の下、利用者も職員も、荏田東で共に暮らす仲間として、楽しみや悲しみを共感し合い、一緒に一つの事に皆で取り組み、互いに「ありがとう」と声を掛け合いながら信頼関係が築けるように取り組んでいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事、面会時や電話を通じ、思いや要望等常に聞く体制で対応しています。居室担当を付け、利用者や家族と密に連携、信頼関係を築き、毎月1回発行する「一言通信」にて、日々の様子、健康状態や内服薬等の情報を共有しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人がいつでも訪ねて頂けるように、事業所の雰囲気作りや、又利用者が家族と外泊、外出が出来る様にご家族様との連携に努めています。	ご近所の方に気楽に立ち寄っていただけるよう、また利用者の馴染みの所への外泊ができるように努めています。2と8のつく日には外で草むしりするなど、かつてよくやったことを一緒に楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃のレクリエーションや、共同作業（庭の日、野菜の収穫）を通じて仲間意識が持てる様になっています。座る席や、散歩時のメンバー構成も利用者同士で会話出来る様、又互いに支え合えるようにと考え支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、介護サマリーにて情報提供し、必要に応じては訪問し様子を伺う事で以前との変化について新しい施設側との情報交換を行い、利用者が安心して生活出来るよう支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や、何気なく言った一言を拾い、どのような状況の中からも少しでも本人の思い、希望へと繋げていける様に、職員全員で把握できるよう話し合いを行なっています。	利用者の何気ない一言に本人の思いが託されていることも有り、これらを「生活に記録」に記述して全職員で共有しています。	日々のコミュニケーションの一端をピックアップし、傾聴・共感・感情の観察姿勢を前面にして、メモに残し、これらを集約してひもといてみるなどさらなる展開を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実調や、本人や家族から生活歴、趣味や特技、生活環境等の情報収集に努め、これまでの生活、生き方、暮らし方を理解し、尊厳しこれからの生活に繋がられる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルの変化や食事量、顔色、表情、行動や会話から、少しの違いに気付く様、日々の観察、見守りを行い職員間の申し送りを徹底し、現状の把握、緊急時の対応にもいち早く対応出来る様に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを元にモニタリング、カンファレンスを全員が月1度必ず実施しています。入院や怪我等その他精神的な変化も含め、家族、主治医や外来医師、看護師、歯科医等、その方に関わるすべての情報を合わせながら作成しています。	フロア会議でカンファレンスの時間をとっています。利用者がその人らしさや願いや悲しみを共有し、医療との連携を保ちながら、その人らしさの実現に向け、介護計画を実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や、個別の記録の申し送りにより、常に利用者の現状、新情報を把握するよう努めています。カンファレンスやフロア会議で居室担当を中心に、個別の検討事項を話し合い意見交換しながら、実践に繋げられるよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室担当を設ける事でいち早く本人、家族の現状や希望に近づける様に対応しています。食事や、入浴、排泄等、個人の希望や要望を重視し、全体的、また個別対応が出来る様に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員外出のレクリエーションを行なう際に、包括支援センターに車椅子をお借りしたり、図書館では、利用者の趣味の植物図鑑を借りては皆で調べたりと、地域資源を活用しながら暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前や入居後においても、受診が必要なかかりつけ医には、継続希望があれば家族付き添いで医療を受けています。受診後は事業所往診医への報告、引き継ぎを希望される場合は、本人、家族の希望に添って対応しています。	入居前からのかかりつけ医を継続される場合の対応は家族がされています。家族の受診への希望を尊重した対応をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医は2週間に1回、医療連携看護師は1週間に1回の受診を受けています。両看護師共に、利用者の現状や変化、バイタル等情報提供し、異変時は直接電話で対応し指示を仰ぎ、相談、指導を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーにて情報提供し、病院関係者、家族との連携に努めています。入院途中経過や、退院に向けての現状把握を医師、ケースワーカー、家族と共に情報交換しながら関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族と情報交換を異行ない、必要に応じては、家族に往診に立ち会って頂き、本人、主治医、管理者にて話し合いの場を設け、今後の方向性や緊急時の対応等、重度化の対応を話し合い支援しています。	5月と6月にターミナルケアを実施しています。看取りマニュアルに従い、看護師の協力を得ながら本人・家族に寄り添い、最期を看取っています。対応した職員からは異口同音に「お別れは悲しいけど幸せを感じました」との感想が聞かれました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの配置、安全対策委員の心肺蘇生法の講習の実施、その研修報告等で全職員が対応出来るように訓練しています。実践力を身に付けられるよう、検討事例を会議で取り上げ話し合っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した、夜間非難訓練や自主訓練を、地域や家族と一緒に連携し行っています。その後地域の方と意見交換を行い、近隣の方や協力者の方の連絡網の作成や、地域で火災が起こった時の協力体制等を築いています。	ホームの防災訓練には地域の方の参加も得て実施しています。参加した地域の人から、火災などを知らせる合図で、バケツを叩いてみてはどうかとの提案があったり、担架についてどうしたらいいかなどの活発な意見が交わされています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	浴室、トイレ、居室等、人目を避けプライバシー保持の工夫や、排泄の促し、排泄物の取り扱いにも最善の注意を払い、対応しています。利用者、職員間の会話等も同様に個人情報には注意し行なっています。	今年度から職員は「接遇目標」を設定、事務室に掲示しています。利用者への声のかけ方、身だしなみなど各自目標に向け取り組んでいます。職員の不適切と思われる対応があった時は管理者はその場で注意し、意識づけを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向を本人自身で伝えられる方のみならず、思いや要望を選択し自己決定できる様工夫し、又実現出来る様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の立場、目線に立ち対応出来る様、一日のスケジュールをなるべく決めずに、「今」を大切に考え、画一的な介護にならない様に、個人のペース、リズムに合わせて日々の流れを作るように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、地域の美容室を利用しています。又、行事イベントに合わせて浴衣や法被を着たり、季節に合った服が提供できるように心掛けています。また、その時に必要な衣服は本人と一緒に出かけ、自分で選べるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションの中で、郷土料理を皆で作って懐かしい味を再現したり、外食にて一人一人が好きな味、物か召し上がれるよう支援しています。日々の食事では、皆と一緒に盛り付けをし協力して行なっています。	日々の調理は専門の職員が行っていますが、時には味噌汁など簡単な調理やおやつを利用者と手作りしています。食事は職員も同席し、話題を提供したり、さりげなく介助しています。外食も利用して利用者の好みの物を提供するよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による食事献立がなされ、カロリー計算がされています。摂取量の記録を基本に禁食、病人食、嗜好の有無でバランスを考え、主治医の指示で他で栄養を補ったり等、低栄養、脱水のないよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科衛生士の指導を受け、毎食後の口腔ケアチェックを行っています。充分出来ない方には、個別の見守りや促し、介助を行い、義歯の方には毎晩洗浄剤を使用して、衛生管理をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、入院後や、入所後も同様に1日でも早く、自立排泄が出来る様、情報を共有し職員が丸となり取り組んでいます。	利用者の排泄傾向をチェック表で把握し、誘導する時はさりげなく声をかけています。職員は利用者の状況を見極め、的確に声かけ、誘導を行い、昼はおむつからパット、パットから布パンツに切り替えるなど自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックをし行い、日常生活の中では食前体操や散歩、運動を多く取り入れ便秘予防に努めています。義歯の具合や体調面でも配慮し、水分補給や、食事形態を考えて取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	今までの生活環境や、入浴時間等できる限り本人の希望に添って支援出来る様に支援しています。時には、入浴嫌いな方に対し、家族の面会時に協力し促して頂く等、気分良く入浴出来る様支援しています。	平均的に一週間に2～3回は入浴できるように支援しています。入浴の時間はその都度利用者の希望を聞いて、夜7時半まで対応しています。お湯はその都度入れ替え、湯温も利用者の好みに合わせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、夜間安眠に繋がる様心掛け支援しています。夜間帯は消灯し、昼夜の変化を付けますが、居室では自由に過ぎて頂き、個々の寝る時間を決めずに映画等、それぞれの対応で支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を個別ファイルにまとめ、服薬ボックスは顔写真付きにする事で確実に服薬支援が行えるように努めています。体調の変化時は常に内服薬と照らし合わせ、主治医の意見、支持が仰げる様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご飯とみそ汁は自分で入れる、使用した食器は自分で洗う、居室の掃除は自分で行う等個々の出来る事への支援をしています。利用者の趣味を理解し、継続出来る様、又新しい事を提供する事で次への意欲に繋がる様支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意向、希望、趣味、これからやってみたい事等を職員全員で聞き取りを行い、実現に向け資料を集め実行出来る様取り組んでいます。本人の意向は家族と共に共有し、実現出来るように協力し、支援しています。	日常的な散歩のほか、利用者の意向を汲み取った外出にも取り組んでいます。太鼓の好きな利用者のためにお祭りに出かけたり、バードウォッチングに行ったり、誕生日には馴染みの職員と二人で外出を楽しんだりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつや日用品の買物、移動パン屋の日に各自でお金を持ち、自分で好きな物を選び購入できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望のある時は、いつでも電話ができる様対応しています。家族からの電話も本人に繋げ安心できるよう支援しています。又、退去された方との手紙のやり取りにて、利用者同士の友情が継続して保てるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる飾りつけを心掛け、散歩時に草花を摘みフロアに飾り、行事の写真を展示し回想、思い出話をしたり、カラオケCDや音楽で雰囲気を作る等工夫しています。	共用空間は清潔を心がけ、気になる臭いの消臭には特に気をつけています。リビングは利用者の作品や季節を感じる飾り付けで明るくにぎやかな雰囲気を作っています。定期的に草むしりの日を設け、利用者と共にホームの外観を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには椅子やソファを配置し、ベランダにはベンチを置き利用者が好きな場所で過ごして自由にくつろげるよう配置しています。飲み物やポットを置き、自由に好きな物を作って飲める様に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウト等本人と家族で考え、親しみのある物、馴染み物、思い出の物、TVやその他必要に応じて自由に持ち込み、本人が安心して過ごせるよう工夫しています。	家族の写真、愛読書、ぬいぐるみなど本人の親しみのある物、大切にしている物を持ち込んでいる居室や、逆に家庭的な雰囲気を排除して、シンプルにしている居室もあり、その方の心情や状況に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛け、介助を見極めながら自分の事は自分でして頂き、生活の中から残存能力を引き出し、個々の理解力を把握しながら支援しています。歩行が不安定な方の転倒予防として手すりや筆筒（たんす）の配置を工夫し、安全に配慮しています。		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【みんなで元気に楽しく共に生きる】の理念の下、利用者本意の個別ケアを主体とした取り組みが出来るよう、日常生活の様子を記録に残し、カンファレンス等で話し合う場を作り、職員全員で共有し、実践へとつなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、今年度は自治会の班長として月1回の集会に参加し、回覧の配布を始め、祭りの参加、消防訓練、敬老の日等、今まで以上に地域の方との交流が図れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事案内を掲示板に展示、近隣への声掛けに挨拶回りやポスティングを行ったり、自治会の高齢者の食事会に参加する中で交流を図り、事業所に気軽に立ち寄って頂くよう呼びかけを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回の開催を目指し、事業所として、地域と共に出来る事を話し合い、依頼、協力を求め意見交換をしています。現在、夜間を想定した火災時の協力について、近隣との緊急連絡簿の作成を行いサービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や、認知症サポーター連絡会、認定更新の機会等に、市町村へ足を運び情報提供をし、担当者との連携を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0（ゼロ）のマニュアルを配置し周知徹底しています。身体拘束廃止委員会を設け、職員で話し合いをし、概ね3ヶ月毎に身体拘束チェックシートにて拘束の有無の確認、疑問点は安全対策委員会へ繋げる等し、日々のケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社での研修、グループホーム連絡協議会での研修等に参加し、回覧やフロア会議等で話し合い、事例などから身近の問題だと職員間で理解し、日々の教務での観察、新たな気付き、発見、報告を実践し、職員全員で虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社での研修、グループホーム連絡協議会や各研修に職員が参加できるよう掲示し、出来るがぎり希望に添えるようシフトの調整を行い参加しています。研修後は必ず回覧を行い、情報の共有をし活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、解約時は施設側、家族側が納得の上契約される様十分な説明を行い、利用者、家族の意向、問題点を確認し支援に反映しています。職員も内容を把握し、同じ方向性でケアが出来る様努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社、事業所にも苦情相談窓口を設けていると共に、投書箱の設置、市区町村へ案内の掲示をしています。又、職員全員が苦情相談員としての一端が担える様、家族会での意見交換等から反映し努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例フロア会議や、随時全体会議、正社員会議を開催し意見交換を行なっています。職員の個別対応、面談も随時行ない、意見、相談等話し合う場を設け、何でも話せる環境作りに努め反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、勤務状況、仕事への意欲、取り組み姿勢等個別の評価をしています。又、やりがいを持ち生き活きと働けるよう、常に自分自身で目標を掲げ、達成出来るように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社やグループホーム連絡協議会、市区町村での研修案内を掲示し、事前に希望や推薦を募り、勤務調整をし参加できるように対応しています。研修後はレポートを作成し、研修資料を回覧、職員全員で共有し現場へ活かせるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会や運営推進会議での交流の場を活かし、同業者との交流が図れるように努めています。近隣の同業者には、行事の案内や、お誘いの訪問をしながら相互の交流が出来る様に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調やサマリーだけの情報に頼らず、職員全員で情報収集に努め、コミュニケーションの中から、本人の訴えや希望、意向、不安、悩み等を傾聴し、知りえた新情報を生活記録にて共有し、本人が安心出来る環境、関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や要望を傾聴し、神速な対応を心がけています。面会時等で、職員の対応からも安心感を持って頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	【必要な人に必要なサービスの提供を】の会社理念の下、利用者と家族のニーズに添ったケアプランを作成し、モニタリングやカンファで話し合いを行い、ニーズに答えられる様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念の下、利用者も職員も、荏田東で共に暮らす仲間として、楽しみや悲しみを共感し合い、一緒に一つの事に皆で取り組み、互いに「ありがとう」と声を掛け合いながら信頼関係が築けるように取り組んでいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事、面会時や電話を通じ、思いや要望等常に聞く体制で対応しています。居室担当を付け、利用者や家族と密に連携、信頼関係を築き、毎月1回発行する「一言通信」にて、日々の様子、健康状態や内服薬等の情報を共有しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人がいつでも訪ねて頂けるように、事業所の雰囲気作りや、又利用者が家族と外泊、外出が出来る様にご家族様との連携に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃のレクリエーションや、共同作業（庭の日、野菜の収穫）を通じて仲間意識が持てる様になっています。座る席や、散歩時のメンバー構成も利用者同士で会話出来る様、又互いに支え合えるようにと考え支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、介護サマリーにて情報提供し、必要に応じては訪問し様子を伺う事で以前との変化について新しい施設側との情報交換を行い、利用者が安心して生活出来るよう支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や、何気なく言った一言を拾い、どのような状況の中からも少しでも本人の思い、希望へと繋げていける様に、職員全員で把握できるよう話し合いを行なっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実調や、本人や家族から生活歴、趣味や特技、生活環境等の情報収集に努め、これまでの生活、生き方、暮らし方を理解し、尊厳しこれからの生活に繋がられる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルの変化や食事量、顔色、表情、行動や会話から、少しの違いに気付ける様、日々の観察、見守りを行い職員間の申し送りを徹底し、現状の把握、緊急時の対応にもいち早く対応出来る様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを元にモニタリング、カンファレンスを全員が月1度必ず実施しています。入院や怪我等その他精神的な変化も含め、家族、主治医や外来医師、看護師、歯科医等、その方に関わるすべての情報を合わせながら作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や、個別の記録の申し送りにより、常に利用者の現状、新情報を把握するよう努めています。カンファレンスやフロア会議で居室担当を中心に、個別の検討事項を話し合い意見交換しながら、実践に繋げられるよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室担当を設ける事でいち早く本人、家族の現状や希望に近づける様に対応しています。食事や、入浴、排泄等、個人の希望や要望を重視し、全体的、また個別対応が出来る様に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員外出のレクリエーションを行なう際に、包括支援センターに車椅子をお借りしたり、歴史博物館で懐かしさに触れながら「これみんなで作ろう。」とレクの参考にさせて頂いたり、地域資源を活用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前や入居後においても、受診が必要なかかりつけ医には、継続希望があれば家族付き添いで医療を受けています。受診後は事業所往診医への報告、引き継ぎを希望される場合は、本人、家族の希望に添って対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医は2週間に1回、医療連携看護師は1週間に1回の受診を受けています。両看護師共に、利用者の現状や変化、バイタル等情報提供し、異変時は直接電話で対応し指示を仰ぎ、相談、指導を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーにて情報提供し、病院関係者、家族との連携に努めています。入院途中経過や、退院に向けての現状把握を医師、ケースワーカー、家族と共に情報交換しながら関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族と情報交換を異行ない、必要に応じては、家族に往診に立ち会って頂き、本人、主治医、管理者にて話し合いの場を設け、今後の方向性や緊急時の対応等、重度化の対応を話し合い支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの配置、安全対策委員の心肺蘇生法の講習の実施、その研修報告等で全職員が対応出来るように訓練しています。実践力を身に付けられるよう、検討事例を会議で取り上げ話し合っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した、夜間非難訓練や自主訓練を、地域や家族と一緒に連携し行っています。その後地域の方と意見交換を行い、近隣の方や協力者の方の連絡網の作成や、地域で火災が起こった時の協力体制等を築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	浴室、トイレ、居室等、人目を避けプライバシーの保持の工夫や、排泄の促し、排泄物の取り扱いにも最善の注意を払い対応しています。出来ない事への不安や、悲しみの軽減を図る為、個別のコミュニケーションを大切にしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向を本人自身で伝えられる方のみならず、思いや要望を選択し自己決定できる様、筆談や手紙等工夫し、又実現出来る様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の立場、目線に立ち対応出来る様、一日のスケジュールをなるべく決めずに、「今」を大切に考え、画一的な介護にならない様に、個人のペース、リズムに合わせて日々の流れを作るように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、地域の美容室を利用しています。又、行事イベントに合わせて浴衣や法被を着たり、季節に合った服が提供できるように心掛けています。また、その時に必要な衣服は本人と一緒に出かけ、自分で選べるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族様と協力し、本人の希望が叶えられるように連携を図り、外食が楽しめるよう支援しています。日々の食事は、職員、利用者共に準備や片付けを行い、個々の味で召し上がるよう、食卓にはしょうゆ、塩を置き、好みを尊重しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による食事献立がなされ、カロリー計算がされています。摂取量の記録を基本に禁食、病人食、嗜好の有無でバランスを考え、主治医の指示で他で栄養を補ったり等、低栄養、脱水のないよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科衛生士の指導を受け、毎食後の口腔ケアチェックを行っています。充分出来ない方には、個別の見守りや促し、介助を行い、義歯の方には毎晩洗浄剤を使用して、衛生管理をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、入院後や、入所後も同様に1日でも早く、自立排泄が出来る様、情報を共有し職員が一丸となり取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックをし行い、日常生活の中では食前体操や散歩、運動を取り入れ便秘予防に努めています。義歯の具合や体調面でも配慮し、水分補給や、食事形態を考えて取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	今までの生活環境や、入浴時間等できる限り本人の希望に添って支援出来る様に支援しています。時には、入浴嫌いな方に対し、家族の面会時に協力し促して頂く等、気分良く入浴出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、夜間安眠に繋がる様心掛け支援しています。夜間帯は消灯し、昼夜の変化を付けますが、居室では自由に過ぎて頂き、個々の寝る時間を決めずに映画等、それぞれの対応で支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を個別ファイルにまとめ、服薬ボックスは顔写真付きにする事で確実に服薬支援が行えるように努めています。体調の変化時は常に内服薬と照らし合わせ、主治医の意見、支持が仰げる様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご飯とみそ汁は自分で入れる、使用した食器は自分で洗う、居室の掃除は自分で行う等個々の出来る事への支援をしています。利用者の趣味を理解し、継続出来る様、又新しい事を提供する事で次への意欲に繋がる様支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意向、希望、趣味、これからやってみたい事等を職員全員で聞き取りを行い、実現に向け資料を集め実行出来る様取り組んでいます。本人の意向は家族と共に共有し、実現出来るように協力し、支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつや日用品の買物、移動パン屋の日に各自でお金を持ち、自分で好きな物を選び購入できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望のある時は、いつでも電話ができる様対応しています。家族からかの電話も本人に繋げ安心できるよう支援しています。又、手紙やFAXでの自分の思いが伝えられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる飾りつけを心掛け、散歩時に草花を摘みフロアに飾り、行事の写真を展示し回想、思い出話をしたり、カラオケCDや音楽で雰囲気を作る等工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには椅子やソファを配置し、ベランダにはベンチを置き利用者が好きな場所で過ごして自由にくつろげるよう配置しています。飲み物やポットを置き、自由に好きな物を作って飲める様に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウト等本人と家族で考え、親しみのある物、馴染み物、思い出の物、TVやその他必要に応じて自由に持ち込み、本人が安心して過ごせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛け、介助を見極めながら自分の事は自分でして頂き、生活の中から残存能力を引き出し、個々の理解力を把握しながら支援しています。利用者に入れ替わりの際も適時対応し工夫しています。		

(別紙4(2))

事業所名 GHみんなの家・横浜荏田東

目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	一人一人の利用者様の思いや、意向の把握ができるようにと居室担当を設け、密にコミュニケーションを図り取り組んでいますが、拾い上げた言葉や意向等を細かく紐解いて行く事が今後の課題である。	本人の思いや意向をしっかり把握し、利用者様が安心して生活できる場が提供できるようにする。又、希望や意向はご家族様と連携しながら、一つでも多く思いが汲み取れ、実現出来るよう取り組む。	何気なく言った言葉、思い、意向、要望等を拾い上げながら一つ一つ紐解いていき、本人の思いを把握すると同時に、知りえた情報を職員、ご家族様と共有しながら、本人の思いに寄り添えるように取り組む。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。